

事務事業ID				部 長		課 長		係 長		担当者	
2279											
令和01年度 事務事業マネジメントシート											
事務事業名				観光でにぎわう魅力づくり事業				担当課		産業部商工観光課	
政策体系	政 策	3					担当係		観光物産係		
	施 策	3	集客資源の創出と充実				事業期間		～		
	基本事業	1	地域資源を活かした魅力の向上				事業区分		市単独事業・国県補助事業 市単独事業		
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業		実施形態		全部委託	
		一般会計	7	1	4	観光物産振興事業費					

【PLAN（計画）】						
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む			
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。			
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	観光客	①意図（どのようになることを目指すか）	伊達市に興味を持ち観光に訪れる	
	初期	②①になるために必要な状態	観光客への受け入れ態勢の充実 観光P R			

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
					目標値	750,000	750,000	2,220,000	1,997,000	2,000,000
	実績値	662,370	2,045,717	1,940,774						
	観光入込客数	人	目標値	25	30	32	32	32		
			実績値	29	32	31				
	イベント参加数（PRの場合）	回	目標値							
実績値										

【DO（実施）】		
活動・アウトプット	事業概要	観光客受入れ体制の強化を目的に、観光案内所及び観光ポータルサイト「だてめがね」の開設・運営を行う。また、観光誘客を促進していくために、地域資源を活用したイベントの開催や首都圏や仙台圏を中心に特産品のP Rなどを行う。
	主な活動	令和01年度実績（実施した主な活動）
		①地域支援事業（ふるさと桜まつり、霊山新緑・紅葉まつり） ②情報発信事業（ポータルサイト だてめがね） ③観光誘客促進事業（観光案内所運営に係る通信費、設備リース、人件費など）

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由		伊達市合併した平成18年より、伊達市の観光物産振興、観光イベントによる地域活性化、産品開発、伝統芸能の継承や伊達市への誘客促進に努めるなど地域経済活性化や交流人口の拡大を図ってきた。							
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画					
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		平成29年観光入込客数698,030人であったが、霊山道の駅のオープンに伴い大幅に増加した。今後は、道の駅から市内への誘客を図る必要がある。 令和元年度は、台風及びコロナウイルスによりイベントの中止等があり入込客数が減少した。 道の駅は天候に左右され、長雨等も影響した。							
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0		0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0		0	0	0	0
地方債			千円	0		0	0	0	0	
その他			千円	0		0	0	0	0	
一般財源			千円	20,789	24,681	24,083	18,625	23,835	23,716	
事業費計			千円	20,789	24,681	24,083	18,625	23,835	23,716	

事務事業 ID	2279	事務事業 名	観光でにぎわう魅力づくり事業	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	----------------	---------	----------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	地域資源(霊山、希望の森)などを活用したイベントによる誘客、姉妹都市友好都市等へのイベント等時の出展や交流などをにに取り組んできた。本市PR効果などを検証する指標として入込客数調の値を使用している。
課 題	・観光素材の少なさ 本市PRだけでなく観光資源を活用して経済効果を出すことが観光では求められている。 インバウンドも含め交流や自然などの魅力を発信するだけでなく、ツアー造成などに繋がるような仕掛けが喫緊の課題となっている。 ・広域観光圏等の連携を含め、市内の魅力ある拠点を増やす必要がある。 ・道の駅に訪れる観光客を市内の観光拠点へと誘客し、市内の地域経済活性化につなげる。
対 策	・インバウンドも含まれる観光戦略策定をR元年に予定していたが、災害やコロナウィルス等の状況の変化があり、戦略の策定を1年延長し、令和2年度に新たな戦略を立てる。 ・ダテニクルカード事業を再構築し、市内の商店への誘客を図る。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	・委託内容の精査 ・PR方法の方向性 ・伊達市の売りを何にしていけるのか ・インバウンド対策
------	----	------------------	---

事務事業ID				部 長		課 長		係 長		担当者	
1743											
令和01年度				事務事業マネジメントシート							
事務事業名				観光諸費		担当課		産業部商工観光課			
政策体系	政 策	3	地域の魅力が輝くまちづくり			担当係		観光物産係			
	施 策	3	集客資源の創出と充実			事業期間		～			
	基本事業	1	地域資源を活かした魅力の向上			事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業		実施形態		直 営	
		一般会計	7	1	4	観光諸費					

【PLAN（計画）】											
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む								
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。								
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	観光客	①意図（どのようになることを目指すか）	観光拠点を訪れることにより、観光客が増える。市のPRパンフレットを見る機会が増える。						
	初期	②①になるために必要な状態	魅力ある観光パンフレット作成し、市内外・首都圏へPRする。								

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
					目標値	750,000	750,000	2,220,000	1,997,000	2,000,000
	実績値	662,370	2,045,717	1,940,774						
	観光入込客数	人	目標値	25	30	32	32	32	32	
			実績値	29	32	31				
			目標値							
実績値										

【DO（実施）】		
活動・アウトプット	事業概要	観光諸費 ・姉妹都市、友好都市、災害提携都市等PR旅費 ・消耗品（歴史観光のまちPR） ・各種負担金等、観光ガイド、パンフレット増刷経費
	主な活動	令和01年度実績（実施した主な活動） ・友好都市等での観光PRを行った。 ・伊達市観光パンフレットや霊山登山マップ等を印刷し配布することでPR活動を実施した。

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	5町が合併し伊達市が誕生した平成18年から、当市の魅力を全国に発信するために開始された。								
	根拠法令・要綱等					関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	観光入込客数は、道の駅の開業により増加した。 観光PRについては、パンフレットをどのような意図でどのような人へ配布するのか、どのように効果を検証できるのか検討が必要。								
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0		0	0		
			都道府県支出金	千円	0		0	0		
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	0		0	0			
		一般財源	千円	6,802	5,657	5,638	5,297	5,652	5,652	
事業費計		千円	6,802	5,657	5,638	5,297	5,652	5,652		

事務事業 ID	1743	事務事業 名	観光諸費	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	------	---------	----------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	伊達市観光パンフレットは複数あり、入込客数の増加に伴い、印刷部数も伸びている。 また、多言語パンフレットの配布も開始している。
課 題	・パンフレットを配布した効果が検証できていない。 ・ターゲットをしぼったパンフレット作成ができていない。
対 策	・費用対効果を求められている 配布だけでなく、経済効果等を図るためのあらたな指標も検討している。 例)パンフ内に、ふるさと納税情報も主要情報の一部して掲載することで、入込客数だけでなく、寄付件数などの効果としていきたい。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	観光という目線だけではなく、「伊達市」を全国へPRするためにも、効果的なPR方法の検討を進める。
------	----	------------------	--

事務事業ID												部 長		課 長		係 長		担当者							
1760																									
		令和01年度										事務事業マネジメントシート													
事務事業名		観光誘客促進事業										担当課		産業部商工観光課											
政策体系	政 策	3	地域の魅力が輝くまちづくり										担当係												
	施 策	3	集客資源の創出と充実										事業区分	事業期間		～									
	基本事業	1	地域資源を活かした魅力の向上											市単独事業・国県補助事業				市単独事業							
予算科目		会計		款	項	目	大 事 業				事業区分	実施形態				一部委託									
		一般会計		7	1	4	観光物産振興事業費																		

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む		
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進する。		
	中間	①対象 （誰、何 に対して 行うか）	市民・市への来訪予定 者・来訪者	①意図 （どのよう になること をを目指す か）	伊達市に興味や関心を持ち観光に来訪する
	初期	②①になる ために必要 な状態	・魅力あるイベント等を提供し、市内に観光客を誘客する。		

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
					目標値	750,000	750,000	2,220,000	1,997,000	2,000,000
	実績値	662,370	2,045,717	1,940,374						
	観光入込客数	人	目標値	25	30	32	32	32		
			実績値	29	32	31				
	イベント参加数（PRの場合）	回	目標値							
実績値										

【DO（実施）】											
活動・アウトプット	事業概要	歴史観光を促すため、アニメ「政宗ダテニクル」のPRを目指し、「伊達なアニメフェス」を開催し続編を制作し、従来の歴史ファンだけでなく、幅広い世代に発信してきた。 「政宗ダテニクル」については、伊達市の観光情報を含めてSNSで発信するとともに、アニメツーリズムを目的とした「伊達市アニメツーリズム実行委員会」への支援を行い、クールジャパンの一つであるサブカル文化による誘客を目指した。									
	主な活動	令和01年度実績（実施した主な活動） ①伊達市アニメツーリズム実行委員会補助金 3,000千円、アニメ政宗ダテニクルを活用した歴史資源を全国に発信。 ②「伊達市アニメツーリズム実行委員会」を通じて企業との連携を図っている。（JC文化祭、富士通ふれあいフェスタへの参加） ③アニメ聖地化推進事業により、多言語看板を5台設置した。									

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		平成26年度のふくしまDCに併せて、市内への誘客効果を図る目的で開始された。更に、平成27年度からは本市固有の地域資源である「伊達氏発祥の地」とした歴史観光について、従来の歴史ファンだけでなく、幅広い世代に発信するためにアニメ「政宗ダテニクル」を6話まで制作。						
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		伊達市アニメツーリズム実行委員会による「伊達なアニメフェス」を開催、約7,000人の来場があった。アニメフェスには、包括連携協定を結んでいるFSGカレッジリーグによるジョブキッズなどを実施し、幅広い層への誘客を図った。 また、インバウンド対策に向け、アニメの聖地5か所に多言語案内看板を設置した。						
			年度 単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (予算)	03年度 (計画)	04年度 (計画)
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0		0	0	0
都道府県支出金			千円	4,800	5,278	6,034	0	0	0
地方債			千円	0		0	0		
その他			千円	0		0	0		
一般財源			千円	27,495	9,181	3,794	3,617	5,400	5,400
事業費計			千円	32,295	14,459	9,828	3,617	5,400	5,400

事務事業 ID	1760	事務事業 名	観光誘客促進事業	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	----------	---------	----------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	①消費拡大につなげる 平成31年1月より、道の駅の集客力・発信力を活用した「伊達の良いとこ30選みんなダテニクルカード」の展開を開始し、誘客を促しながら商店への経済活性化につなげた。 ②歴史の魅力を幅広い世代へ発信 本市固有の歴史的魅力を世界に発信するため、アニメ政宗ダテニクルを活用したイベント等に取り組んできた結果、「訪れてみたい日本のアニメの聖地88」に本市が選ばれた。第2回伊達なアニメフェスには約7,000人が来場した。
課 題	・受け入れ態勢の強化 ・消費に繋がる仕組みづくり ・世界への発信力の強化
対 策	・伊達の良いとこ30選みんなダテニクルカードのしくみを再構築し、市内の観光拠点を経由しながら商店街へと観光客を回遊させる。 ・アニメツーリズム実行員会の在り方についても、今後の方針とともに検討する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	・伊達の良いとこ30選みんなダテニクルカードのしくみを再構築し、市内の観光拠点を経由しながら商店街へと観光客を回遊させる。
------	----	------------------	---

事務事業ID				部 長		課 長		係 長		担当者	
2583				令和01年度 事務事業マネジメントシート							
事務事業名				道の駅管理運営事業				担当課		産業部商工観光課	
政策体系	政 策	3	地域の魅力が輝くまちづくり				担当係		観光物産係		
	施 策	3	集客資源の創出と充実				事業期間		平成30年度 ～		
	基本事業	2	観光客の受入体制の充実				事業区分		市単独事業・国県補助事業 市単独事業		
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業		実施形態		指定管理	
		一般会計	7	1	4	道の駅管理運営事業					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む		
		基本事業の目的	市民を含めた多様な主体との連携により、地域ぐるみで観光客を温かくもてなす体制の充実を図ります。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	道の駅利用者	①意図（どのようになることを目指すか）	道の駅で伊達市内の特産品を購入したり、飲食をする。道の駅を観光のハブとし、市内の観光拠点を訪れる。
	初期	②①になるために必要な状態	指定管理者である一般社団法人りょうぜん振興公社を中心に市が協力し、イベント等により集客を図り、市の魅力をPRする。さらに、道の駅から市内の観光拠点へお客様を誘導する。		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
					目標値	45,000	540,000	1,510,000	1,290,000	1,303,000
		道の駅来客数	人	実績値	77,936	1,503,342	1,261,694			
				目標値	220	220	230	240	240	240
		出店・納品者数	人	実績値	225	225	240			
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		
活動・アウトプット	事業概要	一般社団法人りょうぜん振興公社が指定管理者となり道の駅「伊達の郷りょうぜん」を運営しており、市と協定を結んでいる。 道の駅は、24時間利用できる駐車場・トイレなどの「休憩施設機能」の他、レストランや市の物産の販売やイベント等を行い市の特色や個性をPRしている。
	主な活動	令和01年度実績（実施した主な活動） ・いちご狩り ・100万人達成記念イベント ・桃狩り ・夏祭り ・まぐろ祭り ・秋祭り

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	相馬福島道路を活用した賑わいの拠点づくり								
	根拠法令・要綱等	地方自治法第244条の2第3項 伊達市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例				関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	入込客数が事業開始前54万人/年であったが、190日目で100万人を突破し、H30年度の実績は150万人を超えた。								
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			0	0	0	0
			都道府県支出金	千円			0	0	0	0
		地方債	千円			0	0	0	0	
		その他	千円		4,104	1,888	1,900	1,900	1,900	
		一般財源	千円		74,693	64,761	62,749	62,749	62,749	
	事業費計	千円		78,797	66,649	64,649	64,649	64,649		

事務事業 ID	2583	事務事業 名	道の駅管理運営事業	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	-----------	---------	----------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	想定年間利用者数の3倍の利用者が来場されたということで、賑わいのある拠点づくりは一定の成果が見られた。 指定管理者も地域との連携イベントや季節ごとのイベント、商品開発などを積極的に行って誘客に努めている。
課 題	・指定管理料について、実績や近隣の算定を参考にしながら、適正な価格の再検討が必要と考えられ、最小の投資で最大の結果が得られるような事業検討が必要。 ・全線開通した場合に、入込客が減少しないための魅力ある「道の駅」の経営を検討する必要がある。
対 策	・近隣施設の指定管理料の調査や同規模施設の指定管理料の調査等の詳細調査による適正価格の検討

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	・近隣施設の指定管理料の調査や同規模施設の指定管理料の調査等の詳細調査による適正価格の検討 ・R3年から新たな協定を締結しなければならない。
------	----	-------------------------	---

事務事業ID										部 長		課 長		係 長		担当者				
1764																				
令和01年度										事務事業マネジメントシート										
事務事業名			りょうぜん紅彩館運営事業								担当課		総務部霊山総合支所							
政策体系	政 策		3	地域の魅力が輝くまちづくり								担当係		総務企画担当						
	施 策		3	集客資源の創出と充実								事業区分	事業期間		～					
	基本事業		2	観光客の受入体制の充実									市単独事業・国県補助事業				市単独事業			
予算科目			会計		款	項	目	大 事 業			事業区分	実施形態				指定管理				
			一般会計		7	1	4	りょうぜん紅彩館管理運営費												

【PLAN（計画）】

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む		
		基本事業の目的	市民を含めた多様な主体との連携により、地域ぐるみで観光客を温かくもてなす体制の充実を図ります。		
	中間	①対象 (誰、何 に対して 行うか)	りょうぜん紅彩館の利用者	①意図 (どのよう になること をを目指すか)	りょうぜん紅彩館の利用客に満足してもらう
	初期	②①になる ために必要 な状態	りょうぜん紅彩館を利用した人を満足させることで、周辺の施設のこどもの村、コテージや霊山登山の来客の増加も期待できる。 伊達市外からの利用者を拡大し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む		

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
					目標値	13,000	13,000	13,000	14,000	14,000
	実績値	12,754	13,738	12,820						
	市外からの宿泊者数	人	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
			実績値	1,495	1,371	1,058				
				目標値						
			実績値							

【DO（実施）】

活動・アウトプット	事業概要	りょうぜん紅彩館の管理及び施設修繕 1. 紅彩館指定管理料 2. 施設修繕費								
	主な活動	令和01年度実績（実施した主な活動） 「りょうぜん振興公社」と平成31年度（令和元年度）から令和3年度までの基本協定締結を行い、年度協定を締結し委託料の支払・施設の維持管理修繕・指定管理者との連絡調整を行った。 指定管理によりりょうぜん紅彩館の適正管理と地域物産の展示販売を行うとともに、紅彩館のPRと利用者の拡大を図った。								

【現状把握】

現状・インプット

事務事業を開始した理由			霊山に観光や登山に来て、麓に宿泊休憩施設がなかったことから、平成12年に施設の整備を図った。地元農産物の宣伝販売、農業体験、自然資源を活用して都市との交流を図ることを目的として建築した。						
根拠法令・要綱等					関連する個別計画				
事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）			地元の同級会や登山後の入浴ができることで喜ばれている。シーズン中の予約希望に対し、客室が少ないため対応できない。放射線の影響と風評被害で一般客の利用者は激減したが現在は回復基調にある。施設老朽により頻繁な修繕を行っている。利用者が高齢化していることから椅子を使った食事スタイルを希望されるが椅子や机の準備が無いことから要望に応えることが出来ない。						
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	2,484	0	4,450		
		一般財源	千円	22,594	22,445	28,379	26,579	27,616	27,616
		事業費計	千円	22,594	24,929	28,379	31,029	27,616	27,616

事務事業 ID	1764	事務事業 名	りょうぜん紅彩館運営事業	所属 課	総務部霊山総合支所
------------	------	-----------	--------------	---------	-----------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	りょうぜん振興公社に指定管理により管理を委託して、霊山という自然環境を活用し、施設管理や事業を実施することにより効率的に運営されている。
課 題	①事業評価については、理事として支所長が逐次運営を評価しているものの事業評価書として書類上の点検確認及び次年度への反映がされていない。 ②開設以来18年を経過していることから施設の老朽化が目立つ。また、利用者は高齢化が目立ち食事スタイルも椅子利用を要求されていることからその対応が喫緊の課題である。
対 策	①事業評価について、マニュアルを作成し実施する。 ②老朽箇所の再確認とともに先回り修繕化を行う。高齢用者に対応できる椅子と机を導入する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	伊達市の観光の目玉である「霊山」の麓にある宿泊・休憩施設であり、今後とも継続して管理運営に努める。 施設もバリアフリーも含め、改修の必要がある。
------	----	------------------	---

事務事業ID				部 長		課 長		係 長		担当者	
1457											
令和01年度				事務事業マネジメントシート							
事務事業名				霊山こどもの村管理・施設整備事業				担当課		総務部霊山総合支所	
政策体系	政 策	3	地域の魅力が輝くまちづくり				担当係		総務企画担当		
	施 策	3	集客資源の創出と充実				事業期間		～		
	基本事業	2	観光客の受入体制の充実				事業区分		市単独事業・国県補助事業 市単独事業		
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業		実施形態		指定管理	
		一般会計	3	2	4	霊山こどもの村管理費					

【PLAN（計画）】											
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む								
		基本事業の目的	市民を含めた多様な主体との連携により、地域ぐるみで観光客を温かくもてなす体制の充実を図ります。								
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	こどもの村来園者	①意図（どのようになることを目指すか）	施設を利用し体験活動を楽しむ。 こどもの村自主事業（ワークショップ）に参加し、物事への関心を深める。						
	初期	②①になるために必要な状態	こどもの村園内の施設を良好な状態に保つ こどもの村への来園者に楽しんでもらい、子どもの健全育成に役立てる。								

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
		来園者数(人)	人	目標値	21,000	21,000	21,000	21,000	21,000	21,000
				実績値	29,224	29,795	27,896			
		自主事業(ワークショップ)参加者数	人	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,928	7,801	7,822			
				目標値						
実績値										

【DO（実施）】		
活動・アウトプット	事業概要	◎霊山こどもの村にかかる管理および整備 指定管理料 施設修繕費
	主な活動	令和01年度実績（実施した主な活動） 「りょうぜん振興公社」と平成31年度基本協定を締結し委託料の支払・施設の維持管理修繕・指定管理者との連絡調整を行った。 指定管理により霊山こどもの村の適正な管理を行った。

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	霊山という自然環境の豊かなところで、子どもたちにのびのび楽しんでもらうために昭和47年に施設整備を図り、充実拡張に努力をしてきた。子ども育成に貢献している。								
	根拠法令・要綱等					関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	県立自然公園の中で、子どもたちを遊ばせることができ、小学校の野外学習などにも利用されている。原発事故による放射能の影響で来園者が極端に減少したが回復基調にある。小さな子どもを連れて行くにはまだまだ不安があるとの声もいまだ大きい。 開設以来46年を経過していることから子どもたちを受け入れる施設の老朽化が目立つ。霊山高原構想のスタートアップ事業として「子どもの物語ミュージアム」建設を進めてきたが議会の反対によりリニューアルに転換した。								
		年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度		
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)		
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	56	56	8	8,025			
		一般財源	千円	27,062	26,920	31,477	31,376	31,478	31,478	
	事業費計	千円	27,118	26,976	31,485	39,401	31,503	31,503		

事務事業 ID	1457	事務事業 名	霊山こどもの村管理・施設整備事業	所属 課	総務部霊山総合支所
------------	------	-----------	------------------	---------	-----------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	りょうぜん振興公社に指定管理により管理を委託して、霊山という自然環境を活用し、施設管理や事業を実施することにより効率的に運営されている。
課 題	①事業評価については、理事として支所長が逐次運営を評価しているものの事業評価書として書類上の点検確認及び次年度への反映がされていない。 ②開設以来46年を経過していることから施設の老朽化が目立つ。特に遊具関係は、子どもたちが直接利用することからその安全性の確保が重要である。
対 策	①事業評価について、マニュアルを作成し実施する。 ②遊具や園内施設の適切な修繕管理を行う。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	伊達市の観光施設であり、今後とも適正な管理運営に努める。 こどもの村のリニューアル計画が予定され、誘客を図れる施設への回収が望まれる。
------	----	------------------	--